

修学旅行のお宿でも、分別に協力してね



京都市ごみ減量キャラクター こごみちゃん

ごみの捨て方を確認

旅行先の分別ルールにしたがって、ごみを出してください。分別用のごみ箱があれば、捨てたいものがどれに当てはまるか、確認して正しく入れましょう。



代表的なごみの種類

- 紙ごみ(雑がみ): メモ、付せん、お菓子の空き箱(紙製品)、プリントなど
- 燃やすごみ: 生ごみ、割りばし、汚れのついた紙など
- プラスチック: お弁当ガラ、お菓子の袋(ビニール製品) など
- 缶・びん・ペットボトル

紙のリサイクル、資源物のリサイクルが進むことで、燃やすごみの量が減ります。



みなさんも修学旅行で、3つの取組+αを実行して、一緒に「DO YOU KYOTO?」の輪を広げましょう♪

こんな効果が!

- 京都市を訪れる修学旅行生は、年間約112万6千人(平成29年)です。修学旅行生の皆さんが、使い捨ての歯ブラシ(10g)を使わずに、家から歯ブラシを持参すると、約11トンものごみが削減できる計算になります!
- 京都市の家庭から出るごみに含まれるレジ袋の量だけで年間約2.8億枚にのぼります(平成28年度)。修学旅行中もエコバッグを使って買い物をすることで、捨てるレジ袋の削減につながります。
- 飲食店やホテル等をはじめ、京都市内の事業所から出る燃やすごみの約4割は生ごみで、そのうち約5割が手つかず食品や食べ残しなどまだ食べられるのに捨てられる「食品ロス」です。旅館で出された食事を残さず、できるだけ食べきることで、食品ロスを削減することができます。

エコ・アクション+1(プラスワン)の効果



削減

オリジナル・エコ

にみんなでチャレンジしよう♪

コラム1

「30・10運動※(なるべく残さず食べましょう!)」で宴会(夕食)の食べ残しが約5分の1に減りました!

宴会(夕食)で、「なるべく残さず食べましょう!」=食品ロス等、もったいないをなくすという主旨の声かけをした場合と、しなかった場合の食べ残しの量の比較調査を行いました。

結果、声かけをした場合の食べ残し量が、声かけをしなかった場合と比べると約5分の1になり、声かけによる効果が確認されました。

手つかず食品や食べ残し等の食品ロスは、日本でも年間646万トン発生していて、一人当たりに換算すると、毎日お茶碗約1杯分のご飯が捨てられていることとなります。

※宴会で、食品ロス等、もったいないをなくすという主旨の声かけを実践する取組

夕食時に、かけ声

「なるべく残さず食べよう!」

が有った場合と無かった場合

	食べ残し量	食べ残しの割合
かけ声が無かった場合	83.5g/人	9.5%
	80% 減	77% 減
かけ声があった場合	16.6g/人	2.2%



なるべく残さず食べよう!!



声かけをして、食品ロスを減らしましょう♪

コラム2

平成29年度 エコ・アクション+1(プラスワン)は...

修学旅行中の3つの取組に加え、学校独自のエコな取組を実践する「エコ・アクション+1」に38校の応募がありました。ご応募いただいた学校の皆さまには、修学旅行中の宿泊先でのごみの分別や清掃活動(観光地等でのごみ拾い等)、マイボトル持参、節電・節水等、幅広くエコな取組を進めていただき、ありがとうございました。その中から6校を優秀校として表彰し、記念品を贈呈しました。

今年度も、皆さまの創意工夫あふれるエコ・アクション+1へのチャレンジをお待ちしています。



旅行のしおりのPDF化による紙ごみの削減



エコ新聞によるエコ活動の情報発信



ありがとう♪

昨年の取組例は、こちらで見てね

